

全国小学校生活科教育研究協議会 会長賞

かたつむりと
あそんだ
なつやすみ

おがじまみなみ

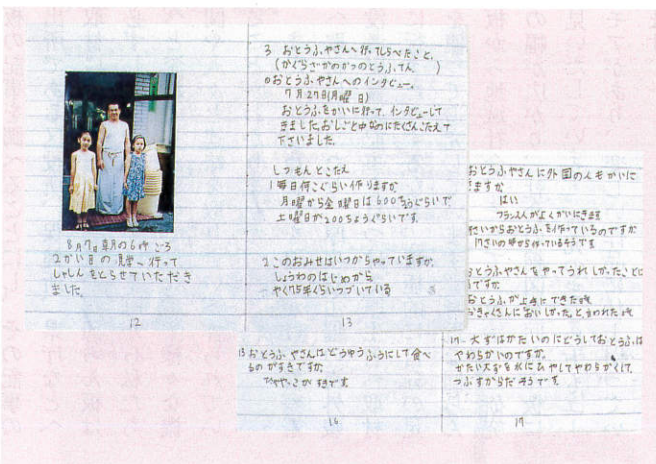
「かたつむりとあそんだなつやすみ」

岐阜県・岐阜市立長良東小学校
一年 岡島 実奈美

身近な生き物を、独自のアイデアと鋭い観察力でいねいに記録しています。
表現力がとても優れており、自分の言葉でのびのびとカタツムリとの交流が描かれています。
最初は「気持ち悪い」と言っていた家族も、実奈美さんが一生懸命世話をしているのを見て、一緒にかわいがるようになるようになりました。カタツムリの観察を通して、家族とのふれあひも深まり、ほのぼのとした観察記録になりました。

「おとうふ屋さん見学」

東京都・白百合学園小学校 二年 田中 彩



中央出版株式会社 社長賞

「豆腐」という一つのテーマについてたいへん深く、ねばり強く掘り下げていた作品です。
幼稚園のころからいつも通っていたお豆腐屋さん取材して、自分なりの言葉で、二十二項目の事柄について、ていねいにインタビューしているのにも感じします。
ただ調べるだけでなく、体験してみることとはとても大切です。実際に豆腐屋さんに早起きして二度、三度と足を運んだことで、仕事の大変さも実感できました。

総評

今年は全体的にまとめ方や表現力が優れた作品が目につきました。文章力はもちろん、観察に付随するスケッチや写真など、非常にすばらしいものが多数ありました。
また、科学的な視点で一つの対象を追究した作品も多かったように思われます。しかし一方で、多方面への研究の広がりをもせる作品や、自分自身の成長を振り返る、といったテーマの作品が少なかつたのは残念です。来年度は、生活科らしい力作を期待します。

入賞

「やさしいなかなよしになろう」
岐阜県・美濃加茂市立古井小学校 一年 渡邊 由佳
「おてつだいえにつつき」
岐阜県・柳津町立柳津小学校 一年 安田 安里
「わたしのすんでる町たんけん」
東京都・東京学芸大学教育学部附属小金井小学校 二年 神山 裕香
「おくらわたしのせより 大きなあれ」
岐阜県・瑞浪市立土岐小学校 二年 片桐 佳美
「とけおばあちゃんへ わたしの心」
岐阜県・瑞浪市立瑞浪小学校 二年 馬場ちひろ
「かいこ日記」
大阪府・大阪教育大学教育学部附属天王寺小学校 二年 木村 有希

文部大臣奨励賞



「わたしのアイスパーティー」

岐阜県・瑞浪市立瑞浪小学校 一年 中川 栞

絵本にあったアイスパーティーを、自分でもやってみました。大好きなお菓子を製氷皿に入れ、水と一緒に凍らせたらどうなるかな？三十分ごとに観察して絵に描いて、全部凍ったら、さあ食べよう！家族みんなでわいわいガヤガヤ、楽しい家庭の様子がよくわかります。
なにより栞さんが楽しんでる様子がよく伝わってきて、見る人も思わずにっこりしてしまうような温かみのある作品になりました。
まとめ方がすばらしく、コンピュータで家族それぞれのキャラクターを作ったり、写真を使ったりと、わかりやすく、楽しく仕上がっています。
また、系統だった五つの実験・観察が積み重ねられ、その集大成としてアイスパーティーを聞くことで、きちんと全体を振り返っており、レポートとしての完成度の高い作品であるとも言えます。

生活科
部門

とてもおいしく楽しい研究でした。でも、氷がとけないうちに記録するのが大変でした。



自由研究のワンポイントアドバイス

●テーマ選び 身近な物事で、他のどの教科にも当てはまらないようなことを取り上げてみましょう。
●研究方法 調べて分かったことから、別の疑問がうまれてくるかもしれない。最初に決めたテーマにとらわれすぎず、自由に興味を広げていきましょう。また、本に頼らず、実際に体験することも大切です。

子どもの文化・教育研究所 理事長賞

自分より体重が重いのに、お姉ちゃんの方がたくさん泳げるのはなぜだろう、という疑問から始まった研究です。ただいろいろなるものを浮かべせるだけではなく、水に入れるときの形や向きなど、一つのものに対してさまざまな角度から考え、実験している科学的な姿勢は、これからもぜひ伸ばしていって欲しいものです。
また、まとめ方にも工夫が見られ、実験結果が自分なりの方法で、わかりやすく書かれている点も、高い評価を受けました。

「うきしずみっておもしろいな」

岐阜県・東白川村立東白川小学校
二年 中島 直紀

